

【無料レポート】既存サイトを WordPress へ移行する方法

この無料レポートでは、HTML で作成された既存サイト（ホームページ）を WordPress 化する方法をまとめています。

エックスサーバーなどでは簡単に WordPress をインストールすることができますから、後はどのように既存サイトのコンテンツを移動すればいいかが分かれば引っ越しはできます。

移行に必要な手順を順を追って丁寧に解説しています。
(動画を使って分かりやすくしています。)

あなたの既存サイトを WordPress に移行する手助けとなれば幸いです。

(1) 移行の手順と現行サイトのバックアップ

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=Q4ED1So7D8g>

これからご紹介する既存サイトを WordPress へ移行する方法は、どのレンタルサーバーを利用されていても、WordPress が使えるサーバーであれば同じことができます。

ただ、レンタルサーバーによって操作方法が異なりますので、すべての方法をご紹介することができません。

そのため、この動画セミナーでは、既存サイトをエックスサーバーで運用されている場合に限った説明になりますのであらかじめご了承ください。

また、あくまで、ショッピングサイトやプログラムが組み込まれてないシンプルなホームページが対象になります。

移行手順

それでは、移行の手順をご説明します。

例として、既存の HTML で作ったサイト

<http://www.shvideo.biz/>

このサイトを WordPress 化します。

そのためにサイトの下に「wp」フォルダを作ってそこに WordPress をインストールして既存サイトの情報を入力します。

<http://www.shvideo.biz/wp/>

「wp」フォルダへインストールした WordPress への入力がすべて終わったら、既存サイトの HTML などをすべて削除して「wp」フォルダのファイルを移動します。

その後、データベース一括書き換えをツールを使って行って URL を古いものから新しいものへ書き換えて作業を完了させます。

FileZilla を設定する

FileZilla という FTP ソフトをご紹介します。

FTP ソフトにはいろいろありますが、WordPress の引っ越しをするならオススメの 1 つです。理由は、WordPress のファイルは数が多く、全体のサイズも大きいので途中でエラーが起きやすいのですが、この FileZilla は途中でエラーになることが少ないからです。

他の FTP ソフトだとエラーになることが多々ありますので、パソコン得意でない場合はこの FileZilla をオススメします。

また、Windows でも Mac でも同じソフトがあります。

サーバーのファイルをバックアップする

FileZilla を使って、既存サイトのバックアップをします。

サイトマネージャを開いて、新しいサイトをクリックし、適当に名前を入れます。

右側の一般で、ホスト、ログインの種類、ユーザ、パスワードの 4 箇所を変更します。

設定する値は、エックスサーバーを契約した直後に送ってくるメールで「Xserver サーバアカウント設定完了のお知らせ（試用期間）」というのがありますが、そこにこのような記載があります。

▼「サーバーアカウント情報」の中に

FTP ホスト: xxxxxxxx

ユーザー: xxxxxxxx

パスワード: xxxxxxxx

があり、それぞれが、ホスト、ユーザ、パスワードに対応します。

ログオンの種類は、通常にします。

終わったら「接続」をクリックします。

画面表示が変わります。

ここから、既存サイトが保存されている場所を探します。

そして、自分のPC側に適当にフォルダを作って、ここにダウンロードをします。

ダウンロードが終わりましたら次の作業に進みます。

もし、このバックアップができなければ、この後の作業をしても意味がありません。

必ず、この作業ができることを確認してから引っ越し作業をしてください。

(2) 最低限の原稿を作る

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=TWRkm8i14AQ>

準備する原稿

では、最初のステップです。

まず、作業を効率化するために最低限の原稿をご用意いただきます。

最低限の原稿とは、次の項目になります。

- (1) サイトタイトル
- (2) サイト説明文
- (3) メニュー
- (4) ページタイトル

ご覧頂くと分かりますが、既存サイトからそのまま持ってくればいいだけの情報です。

ただ、テキストファイルにこれらの情報をまとめておいていただくと作業がしやすいということです。

既存サイトから情報をコピーする

では、実際に作っていきますが、まずはテキストエディタをご準備ください。

Windowsならメモ帳、Macならテキストエディットで十分です。

まず、既存サイトを表示して、上記の情報をコピーしていきます。

移行するサイトはこのサイトになります。

<http://www.shvideo.biz/>

まず、HTML を表示したいので、Chrome であれば”ページのソースを表示”を選びます。

こちらの title タグからタイトルをコピーします。

つぎに、meta description からサイト説明文をコピーします。

次に、コピーできればメニューをコピーします。

無理な場合は、表示を見ながら打ち込みます。

ここで、メニューには番号を振っておきます。

最後に、既存サイトにはサイトマップがありませんが、サイトマップというメニューも作っておきます。

次にページタイトルですが、これはメニューに対応していますので1つずつやっていきます。

ホーム、つまりトップに表示されるページは、ページタイトルはサイトタイトルと同じですからいりません。

メニューをクリックして対象のページを開きます。

そして、先ほどと同様に HTML を表示し、title タグからコピーしてきます。

また、この際に、html のファイル名もコピーしておいてください。

それと、meta discription をページごとに変えている場合はこちらもコピーしておきます。

これをすべてのメニューに対して行います。

ページタイトルとサイトタイトルですが、文字数が29文字を超えている場合は、今の Google で表示される限界が28文字ぐらいですので長さを調整しておいてください。

サイト説明文の方は、135文字ぐらいまで大丈夫なようですのでこちらも必要に応じて調整をします。

(3) エックスサーバーで WordPress をインストールする

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=BOOr8GxDR2g>

エックスサーバーで WordPress をインストールする方法をご説明します。

まず、ログインしていただいて、サーバーパネルの画面を表示します。

次に、設定対象のドメインを変更します。つまり、WordPress をインストールしたいドメインを選びます。

「自動インストール」といメニューをクリックし、「プログラムにインストール」というリンクをクリックします。

この中に「WordPress 日本語版」というのがありますので「インストール設定」ボタンをクリックします。

画面が切り替わって、WordPress をインストールするのに必要な情報を入力する画面になります。

PHP についての表示が出ている場合は、先に PHP のバージョンを変更します。

今からインストールする WordPress のバージョンが 3.9 以上だからです。

ここでバージョンが選べますが、特にバージョンにこだわりがなければ、推奨を選んで変更します。

最新を選ばないのは、安定性を優先するためです。より新しいバージョンの方が安定している訳ではないからです。

戻りまして、必要な情報を設定していきます。

インストール URL は、何も入力しなければルートにインストールされます。

今回は、既存サイトの下に「wp」というフォルダを作ってそちらにインストールします。

そして、「wp」フォルダで既存サイトの WordPress 化が終わったら、すべてのファイルをルートにコピーして既存の HTML サイトを削除します。

この手順で、既存サイトを WordPress へ移行します。

次に、ブログ名ですが、これがサイト名になります。

原稿のサイトタイトルを入力します。次に、ユーザー名とパスワードです。

ユーザー名とパスワードは、不正侵入をされないためにも第三者に簡単に推測されないような値をしっかりと設定する必要があります。

次に、メールアドレスは、このサイトの代表となるメールアドレスを設定しておくといいと思います。

つまり、ビジネスでお客様とやり取りをするのに使うメールアドレスが決まっていればここに設定するといいです。

理由は、ここに設定したメールアドレスが、WordPress やプラグインの機能で、いろいろな箇所で自動で挿入されることがあるので、ここにちゃんと設定しておくとも再設定の手間が省けます。

ちなみに、インストール先のドメインのメールアドレスでなくても問題ありません。

また、後からでも変更可能です。

次に、データベースは、「自動でデータベースを作成する」を選ぶのが一番簡単です。

「作成済み」を選ぶ場合には、手動でデータベースの設定をしておく必要がありますので初心者の方は自動を選んでください。

以上、入力が終わりましたら「インストール（確認）」をクリックします。

(4) 基本設定をする

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=8EWTLGgJpU4>

管理画面を開く

これから、WordPress をインストールした直後に行う基本設定をします。

まず、管理画面を開きます。

表示設定を開く

左にメニューがありますが、「設定」の中に「表示設定」というのがありますのでクリックします。

表示設定画面の一番下に、「検索エンジンの表示」というのがあります。

ここの「検索エンジンがサイトをインデックスできないようにする」のチェックをしてください。

今は引っ越し作業用として、「<http://www.shvideo.biz/>」の下のフォルダにワードプレスをインストールしています。

チェックをしないと、「<http://www.shvideo.biz/wp/>」の下に作ったファイルがインデックスされてしまうので都合が悪いのです。

こちらのフォルダで WordPress 化を終わらせた後に、今の HTML があるルートにすべてのファイルを移動します。

そして、移動が終わったらこのチェックを外すことになります。

いったん「変更を保存」ボタンをクリックします。

デフォルトで入っている、投稿、固定ページ、コメントを削除する

次ですが、左メニューから、それぞれ投稿、固定ページ、コメントをクリックすると一覧が表示されます。

たとえば、投稿ですとこのようにサンプルが入っていますので、マウスをタイトルにオーバーしてゴミ箱をクリックして削除しておきます。

固定ページ、コメントについても同様です。

ディスカッション設定でコメントを使えなくする

次ですが、WordPress の困った点としては、インストール直後の設定を放置しておくとなすぐにスパムコメントが投稿されることがあります。

今回のように、ホームページとして WordPress を使う場合はコメント機能は必要ない場合が多いと思います。

そこで、コメントをクローズして使えないように設定をします。

「設定ーディスカッション設定」から表示すると、最初は以下のようにコメントが可能な設定になっています。

投稿のデフォルト設定のチェックをすべて外します。

一応これでクローズになりましたが、念を入れて他の設定もします。

他のコメント設定で、最短の日数でコメントフォームを閉じるようにし、スレッドについてはチェックを外します。

さらに、コメント表示条件で、管理者の承認が必要になるようにし、承認済み投稿者であってもその後のコメントを表示させないようにします。

これでコメント機能はクローズになりましたので「変更を保存」ボタンをクリックします。

その他の細かい設定

【一般】

「設定ー一般」で開くと、上から2番目に”キャッチフレーズ”という欄があります。

初期値が”Just another WordPress site”なので、ここにステップ1で作った原稿からコピーして、サイトの説明文を入れます。

【パーマリンク設定】

ここは、ホームページの各ページに使う固定ページの設定ではなく、投稿ページの方の設定です。

投稿ページというのは、いわゆるブログ機能だと思ってください。

「設定ーパーマリンク設定」で開くと、”共通設定”でURL の表示方法が選択できます。

最初の設定のままでも問題ないですが、お勧めは”カスタム構造”に、投稿 ID を設定してください。

カスタム構造「/ %post_id%」

変更したら、「変更を保存」でセーブします。

メニューを使って固定ページを作る

次に、”固定ページ”を作っていきます。

タイトルに、最低限の原稿として作った”ページタイトル”を使って空ページを作っていきます。

ステップ1で作った原稿を使いますので、テキストファイルを開いてこの先の作業を進めてください。

まず、管理画面の「固定ページ-新規追加」で編集画面を開きます。

一番上のタイトル欄に”ページタイトル”を入力してから右の青いボタン「公開」をクリックします。

少し遅れたタイミングでタイトルの下に、”パーマリンク”が表示されます。

ここに html ファイルと同じ名前を貼り付けます。

もちろん、同じでなくても構いませんが作業効率を優先させる場合はこの方法がオススメです。

ただ、全角日本語が入るのはいろいろ面倒だと私は思っていますので、短い半角文字に変えておくことをオススメしています。

半角文字に変えてから「OK」をクリックします。

次に、右側にある”ページ属性”の中の”順序”にメニューの順番通りの数字を入れておきます。

この数字を入れておくと、後の工程で作成する”サイトマップ”で順番通りに並んでくれるので便利です。

また、管理ページで固定ページ一覧を表示した場合にも順番通りに並びますので管理がしやすくなります。

以上で、「更新」ボタンをクリックします。

この時点では、タイトルだけで固定ページの中身はありません。

後から編集することにして、今は何も入力しないで進めましょう。

この調子でどんどん残りのメニューの”ページタイトル”だけ入れて保存しておきます。

この調子で空のページができていきますが、メニューに対応したページが作られていきますので、続く

工程で”テーマのメニュー”が設定できます。

テーマのメニューを作成する

全てのメニューに対応する空ページができたなら、”テーマのメニュー”を作成します。

メニューは、上部のグローバルメニューとサイドのサイドバーメニューを作ります。

管理画面の”外観-メニュー”を選び、右側の”メニューの名前”に”グローバル”と入れます。

左下に”固定ページ”があり、この中に今作成した空ページのタイトルが並んでいます。

この中からグローバルに入れるべきページを選んで、「メニューに追加」をクリックするとメニューに追加されます。

ページタイトルとメニューが違う場合は、ラベルで修正します。

終わったら、青いボタン「メニューを保存」をクリックします。

今度は、”新規メニューを作成”リンクをクリックしてメニューのタブを追加し、”サイド”と入力して作成し、固定ページを同様に追加してから「メニューを保存」をクリックします。

(5) プラグインをインストールする

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=WqAzpBRQqC0>

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=Hd-w6zSaXaE>

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=vWT6EIUo5-E>

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=XjvJWoUASoM>

インストールするプラグインの紹介

WordPress をホームページとして運用する場合に、私がお勧めしているプラグインをご紹介します。

- All in One SEO Pack
- BackWPup
- Broken Link Checker
- Contact Form 7
- Google Analytics Dashboard
- Image Widget
- Pretty Link Lite

- PS Auto Sitemap
- Redirection
- TinyMCE Advanced
- TinyMCE Clear
- Ultimate Google Analytics

ビジネスの内容によってはこれら以外も使いますが、今ご紹介したプラグインは邪魔にならない限りインストールしてもらって損はないと思います。

(0) WP Multibyte Patch

管理画面のプラグインをクリックすると、最初からいくつかのプラグインがインストールされています。

自動インストールの場合は、先ほどご紹介したプラグインもすでにインストールされていることもあります。

この中で、必ず入っているもので「WP Multibyte Patch」というプラグインがあります。

これは、WordPressを使う上で、マルチバイト文字、つまり日本語の文字に最適化してくれるプラグインです。

最初は、無効になっていますが基本的には有効にしておいた方がいいので、「有効化」をクリックしてください。

たまに他のプラグインとの相性が悪い場合があり、無効にした方がいいケースもありますので、そのことだけ頭に入れておいてください。

(1) All in One SEO Pack

プラグイン「All in One SEO Pack」をインストールします。

管理画面のプラグインの新規追加で「All in One SEO Pack」を入力して、「プラグイン検索」します。

「いますぐインストール」リンクをクリックすると、インストールが始まりますので終わったら有効化します。

このプラグインは非常に有名なプラグインで、WordPressで作ったホームページのSEO内部対策をするために使います。

このプラグインではいろいろなことができますが、私は主に2つの用途で使っています。

1つは、サイト全体のページタイトルの表示形式を決めること、そして、ページ毎の説明文やキーワードの設定をすることです。

では、設定をしていきますが、左側に「All in One SEO」というメニューが表示されます。

上から順番に設定していきます。

(i) General Settings

すべてデフォルトのまま変更しないで大丈夫です。

“Use Original Title:”を”利用停止”にしておくことで、後の”Home Page Settings”が有効になります。

(ii) Home Page Settings

“ホームタイトル”に、原稿で作った”サイトタイトル”を入力します。

“ホーム詳細”には、同じく”サイト説明文”を入力します。

“ホームキーワード”には、狙うキーワードを半角カンマで区切って入力します。

(iii) Keyword Settings

デフォルトのまま大丈夫です。

ほとんど SEO には影響しないと言われています。

(iv) Title Settings

ここで、最初に申し上げた”サイト全体のページタイトルの表示形式”が設定できます。

“固定ページタイトルフォーマット:”からずっと下がって”検索時のタイトルフォーマット:”までの、”%blog_title%”を書き換えます。

これは、例えば”固定ページタイトルフォーマット:”の場合は、タイトルが”%page_title% | %blog_title%”となっています。

ページタイトルの後に縦棒が表示されてサイトタイトルが表示されることになります。

サイトタイトルは、先ほど設定したように元々 28 文字ぐらいで作っています。

そのため、page_title (はページタイトル) 、と blog_title (サイトタイトル) の 2 つが連続して並ぶと非常に長いページタイトルになってしまいます。

そこで後半の blog_title の方を省略するのが書き換えの目的です。

サイトタイトルが文字数を目一杯 28 文字使った以下のような場合は

ホームページ集客～絶対に外せない 3 つのノウハウを徹底解説

キーワードぐらいに省略して

ホームページ集客

とします。

そのためには、”%blog_title%”を”ホームページ集客”に書き換えて

”%page_title% | %blog_title%”

↓

”%page_title% | ホームページ集客

とします。

これで、ページタイトルに続けて、縦棒、そして”ホームページ集客”が表示されます。

(v) その他

以下の項目は、デフォルトのまま変更しません。

- Custome Post Type Settings
- Display Settings
- Webmaster Verification
- Google Settings
- Noindex Settings
- Advanced Settings

(vi) ページごとの設定

ページ毎の説明文やキーワードの設定をする場合は、固定ページの編集画面で行います。

編集エリアの下に、設定箇所がありますのでこちらで設定すると、ここの値が先ほどの全体設定よりも優先されます。

(2) BackWPup

「BackWPup」がインストールされていなければ同様にインストールしてください。

このプラグインは、WordPressで作ったサイトのバックアップをしてくれるプラグインです。

レンタルサーバーとしてお勧めした、エックスサーバーもロリポップレンタルサーバーも会社の方でバックアップをしているレンタルサーバー会社です。

数年前に事故のあった会社のように、突然にすべてお客様のデータが消えてなくなるようなことはない

と思います。

それでも、やはり自分自身で、WordPress のデータを自分の PC やクラウドに保存しておくことをお勧めします。

WordPress のバックアップについては、通常の HTML で作ったホームページのようにファイルだけを保存すればいいといった単純なモノではありません。

WordPress は、一般の html で作成したサイトと違ってデータベースにデータを保存しています。

“BackWPup”は、このデータベースにあるデータのバックアップと、その他画像ファイルなどをまとめてバックアップして保存してくれます。

保存先は、いろいろと選択が可能で、例えばメールでファイルを送信したり、あるいは ftp で自分のレンタルサーバーにアップロードしたりできます。

個人的な保存先のオススメとしては、無料で使えるクラウドストレージ、例えば Dropbox に保存するのをお勧めします。

では、設定をしますが、管理画面に「BackWpUp」というメニューができています。

この中から Jobs を選んで、AddNew ボタンをクリックします。

General タブから設定します。

Job Name に適当に名前を入力します。

Archive name のファイル名をどのバックアップファイルか分かるように変えた方がいいと思います。

たとえば、xxxxxx のような感じですね。

Archive Format は、個人的には Zip 形式が無難だと思っています。

「Job Destination」は、いろいろな方法がありますが、今回はクラウドストレージに保存する方法の例として Dropbox に保存する方法をご説明します。

「Back to Dropbox」を選びます。

このように、クラウドサービスも Dropbox 以外いろいろ使えます。

「Log Files」の「Send log to e-mail address」には、バックアップ処理の内容をメールで送ってもらうためにメルアドを設定します。

「E-Mail FROM Field」には、送信元を入力します。

特に変更する必要はありませんが、サイト名がそのまま入りますので短く省略した方がいいかもしれません。

「Errors only」にチェックを入れると、エラーの場合だけメールが送きます。

次に「Schedule」タブを設定します。

「Start Job」で「with WordPress cron」を選ぶと、このように下に設定画面が表示されます。

これが、自動起動の設定になりますので「Scheduler」で、「daily」を選択して、「3」、「0」とすると「毎日深夜3時」に実行されます。

次に「To: Dropbox」タブを設定します。

これは「General」タブで「Back to Dropbox」を選択することで表示されるタブです。

最初は、赤字で「Not authenticated」と表示されていますので、Dropboxのアカウントを使って認証をします。

アカウントを持っていない場合は「Create Account」から作成して処理を進められます。

既にアカウントを持っている場合は、「Reauthenticate(Sandbox)」または「Reauthenticate(full Dropbox)」を選んで認証画面に移動します。

どちらでも問題ありませんが、Sandboxの場合、BackWPupのアクセスをDropboxの一部に限定できるためセキュリティが高まります。

認証が成功すると、文字が変わって「Authenticated!」と表示されるので残りの設定をします。

「Folder in Dropbox」には、バックアップファイルを保存するフォルダ名を入力します。どのサイトのバックアップを保存しているかすぐに分かるような名前が好ましいと思います。

「File Deletion」は、バックアップファイルの世代管理の世代数です。適当に決めてください。

以上で、すべての設定が終わりましたので、青いボタン「Save Changes」をクリックして設定を保存します。

後は、設定した時間になればバックアップ処理が自動的に起動しますが、その前に手動で動作検証を試みます。

こちらに

「BackWPup」の「Jobs」をクリックすると設定一覧が表示されますので、設定の上にカーソルをオーバーします。

「Run Now」が表示されますのでクリックしますとバックアップが実行されます。

問題なければ無事にバックアップ成功します。

(3) Broken Link Checker

「Broken Link Checker」がインストールされていなければ同様にインストールしてください。

このプラグインは、一定時間ごとにサイト内のページからのリンクにエラーがないかをチェックしてくれます。

自分のサイト内のリンクエラーも見つけてくれるので便利ですが、外部のサイトへのリンクのチェックをしてくれるところが便利です。

外部のリンクは、何らかの理由でサイトが閉鎖されることがあるので手動でチェックには限界があるからです。

大事な話として、SEO 的には、サイト内にリンク切れ、つまりリンクエラーがあると評価を落とす原因になります。

設定の中にある、「Broken Link Checker」を開くと、最初の「一般」タブにサイト内にリンクエラーがあるとエラーが表示されます。

リンクをクリックするとエラーの一覧が表示されるので、その場で URL を変更したり、あるいはリンクを解除したり、あるいはなんらかの理由でリンクエラーでない場合はリンクエラーにならないようにできます。

このように問題のあるページに移動することなく、この画面で編集して行うことができます。

もちろん、右側のリンクから対象のページの編集画面に移動したりすることができます。

また、ダッシュボードを見てもらうと、Broken Link Checker 情報の表示が追加されています。

(4) Contact Form 7

「Contact Form 7」がインストールされていなければ同様にインストールしてください。

このプラグインを使うと、ホームページにお問い合わせフォームを簡単に追加できます。

お問い合わせフォームの設置は、パソコンに詳しくない方が、ホームページ制作の際に必ず苦勞することと言えます。

一方、お問い合わせフォームは、ホームページで集客をしようとするなら必ず必要になるツールですので、フォームの設置作業は避けようがありません。

よく、フォームが設置できないために、ページに直接メールアドレスのリンクを貼り付けているのを見かけますが、このやり方はいろいろな意味でよくありません。

また、外部サービスの無料フォームを使っている方も多いですが、アクセスが外部サイトに移動してしまうのもあまりよくありません。

大げさでなく、Contact Form 7を使えばこういった苦勞が劇的に軽減されます。

インストールを行って有効化すると、管理画面の上部に”お問い合わせ”というメニューが表示されます。

クリックすると設定画面が表示されて、すでに例として”コンタクトフォーム 1”というフォームが登録されていると思います。

実は、このまま、このフォームを使うことも出来ます。

では、初期設定の中身を理解して自分なりの設定に変更してみましょう。

まず、登録されている”コンタクトフォーム 1”をクリックして編集画面を開きます。

初期段階では、”お名前、メールアドレス、題名、メッセージ本文”をフォームで送信できるようになっています。

画面をスクロールすると、”メール”の設定があります。

この設定は、管理者向けに送るメールの設定です。

”宛先”には、WordPress をインストールした際に登録したメールアドレスが自動的に入力されます。

差出人には、フォームで入力された”お名前とメールアドレス”が自動的に入るようになっています。

件名には、こちらもフォームで入力された”題名”が自動的に入るようになっています。

右側を見ると、メール本文の初期値が入っています。

内容を見るとわかりますが、フォームで入力された項目が設定されているのがわかります。

以上のこれらの項目は、自由に変更ができますので、使い勝手がいいように変更ができます。

また、同様に”メール(2)”の方を使うに設定すると、設定が画面が表示されて、フォーム送信者に対する自動返信メールを送ることができます。

フォームの使い方は、一番上の”このコードをコピーして、・・・”の下にある文字列を指示通りに貼り付けるだけです。

これだけで、ページにフォームが表示されて実際に送信が可能になります。

実際に送ってみます。

固定ページにショートコードを貼り付けて、フォームを送信

メールが届いていることを確認する。

(5) Ultimate Google Analytics

「Ultimate Google Analytics」がインストールされていない場合は同様にインストールしてください。

このプラグインは、「Google Analytics」というアクセス解析サービスを使う場合の設定が楽に行えるものです。

そのため、あらかじめ、「Google Analytics」のアカウントを取得してUA から始まる「Account ID」をメモしておきます。

インストールを行って有効化すると、「設定」の中に「Ultimate GA」というメニューが表示されます。

クリックすると「Account ID」を設定する場所がありますので、先ほどメモした ID を入力します。

そして、一番下の「Update options」ボタンをクリックすれば完了です。

これで、すべてのページに対してのアクセス情報が記録されていきますので、後は Google Analytics の管理画面で確認できます。

また、「Google Analytics Dashboard」もインストールしていればダッシュボードや固定ページや投稿の一覧でもアクセス数が把握できます。

(6) Google Analytics Dashboard

「Google Analytics Dashboard」がインストールされていない場合は同様にインストールしてください。

ホームページで集客をする場合は、数字の分析が非常に重要です。そのため、アクセス解析を定期的にチェックする必要があるのですが、この作業がおっくうになるケースがしばしばあります。

一番の理由は、アクセス解析のサイトに移動して内容を確認する必要があるからです。

このプラグインをインストールすると、あくまで概要ではありますが、アクセス解析に集計されている最新の値を管理画面のダッシュボードで確認することができます。

正確な数字を分析するためには、アクセス解析のページに移動する必要がありますが、概要だけでも常に見られるとさまざまな利点があります。

また、このプラグインは、サマリーがダッシュボードに表示されるだけでなく、固定ページ、投稿ページの一覧で、ページごとのアクセス数のグラフを見ることができます。

設定方法ですが、あらかじめ別のタブでアナリティクスにログインしておきます。

WP の管理画面に戻って「設定 - GoogleAnalytics Dashboard」を開きます

認証をすると選択ができます。

保存して完了です。

これで、最新情報がダッシュボードと、投稿や固定ページの一覧で表示されます。

ダッシュボードで目立つ場所に移動すると見やすいかと思います。

Image Widget

「Image Widget」がインストールされていなければ同様にインストールしてください。

このプラグインは、サイドバーに画像を貼り付けるときに便利です。

このように、画像ウィジェットというのが追加されて使えるようになります。

テキストウィジェットを使えば画像をサイドバーに表示できますが、画像ウィジェットを使った方が遙かに簡単にできます。

(7) Pretty Link Lite

「Pretty Link Lite」がインストールされていなければ同様にインストールしてください。

このプラグインは、メルマガやブログ、ツイッターに貼り付けたリンクがクリックされた回数をアナリティクスなどのアクセス解析よりもお手軽に、集計してチェックすることができます

短縮 URL を使ってもクリック数のカウントはできますが、このプラグインで作る URL は、自分のドメインを使えるのでリンク URL が怪しくありません。

手順としては、PrettyLink で集計用のリンクを作って、そのリンクから集計した方の実体ページに移動するように設定します。

このようにすると集計用のリンクが何回クリックされたかがカウントされます。

(8) PS Auto Sitemap

「PS Auto Sitemap」がインストールされていなければ同様にインストールしてください。

このプラグインは、サイトマップページを自動的に作ってくれます。

サイトマップページがあると、検索エンジンはサイト全体のページをくまなくクロールしてインデックスしてくれます。

どちらかという、サイトマップの役割は、ユーザーのために操作性を向上させることよりも検索エンジン対策の意味合いが強いです。

サイト全体のページをまとめてリンクしている、こういったページがないと、特に作ったばかりのサイ

トの場合は不利になると考えてもいいです。

では、設定をしていきます。

”設定”の中に”PS Auto Sitemap”というメニューが表示されます。

設定方法は、このページの一番下にある”ご利用方法”に書いてありますが、やることは簡単です。

ここに表記してある”タグ”をコピーして固定ページに貼り付けるだけです。

まず、これをコピーをして、固定ページでサイトマップページを開きます。

そして、貼り付けをするのですが、ビジュアル編集のままでは貼り付けられません。

編集モードを”HTML モード”変更してから貼り付けます。

保存して終了です。

貼り付けて保存したら、固定ページの一覧を表示して、この固定ページの記事 ID をメモします。

一覧にマウスを持って行くと、Chrome の場合はここに ID が表示されます。

次に、「設定-PS Auto Sitemap」に戻ってきて、上から 4 番目ぐらいにある”サイトマップを表示する記事”にその番号を入力して青いボタン「変更を保存」します。

以上で、先ほど作った固定ページにはサイトマップが表示されます。

細かい設定がありますが、私はホームページとして使う場合は初期設定値から以下のように変更して使っています。

- ・投稿リストの出力 チェック外す
- ・先に出力すりリスト 固定ページにチェック
- ・除外記事 必要に応じて入力
- ・スタイルの変更 シンプル 2 (これは趣味ですのでご自由に)
- ・著作権表示を非表示にする

変更してもう一度固定ページを表示すると、このように変更されます。

(9) Redirection

「Redirection」がインストールされていなければ同様にインストールしてください。

このプラグインは、削除したページにアクセスが来た場合の”

404 エラー”、つまり”PAGE NOT FOUND”を避けるために使います。

ページを削除したり、複数のページを統合したりした場合に、そのページへのアクセスを他のページにリダイレクトさせてエラーを防ぎます。

作ったばかりのサイトには用のないプラグインですが、それでも数ヶ月もホームページを運用しているとすぐに必要になります。

逆に、SEO でアクセスを集めるのであれば、すぐに使うぐらいページを新陳代謝させておく必要があります。

今の Google はアクセスの少ないページを持っているサイトの評価を落とす傾向がありますので、アクセスが少ないページは消してしまうなり、他のページに統合するなりの作業が常に必要だからです。

使い方は、「ツールリダイレクション」を開き新しい転送ルールを追加というところで削除した URL をソース URL に、転送先のページの URL をターゲット URL に入力するだけです。

一致条件、操作はそのまま 301 リダイレクトというページの引っ越しになります。

終わったら「新しい転送ルールを追加」をクリックします。

ちなみに、アクセスがあると、このページのヒット数にクリック数が集計されます。

(10) TinyMCE Advanced

「TinyMCE Advanced」がインストールされていなければ同様にインストールしてください。

このプラグインは、固定ページや投稿を作成・編集する際に使うビジュアルエディタに機能を追加してくれるものです。

具体的には、ツールバーが強化され文字装飾の使い勝手が向上します。

たとえば、WordPress が元々提供してくれているビジュアルエディタでは作成が困難なテーブル（表）の作成もできるようになります。

インストールを行って有効化すると、「設定」の中に”TinyMCE Advanced”というメニューが表示されます。

クリックして設定画面に移動すると、上部にツールバー、下部にパーツが表示されていますので、必要なパーツを自由に配置するだけです。

「Save Changes」すると、固定ページのビジュアルエディタの方にツールバーとして表示されます。

この表示になれば、無料ブログを使ったことがある方なら違和感なくページを新規作成したり、あるいは編集したりできますし、普段ワードなどのワープロを使っている方も違和感がないと思います。

(11) TinyMCE Clear

「TinyMCE Clear」がインストールされていないければ同様にインストールしてください。

このプラグインは、ビジュアルエディタのツールバーに囲い込みを解除するためのボタンを3つ追加してくれます。

プラグインを有効化するだけで、ツールバーにボタンが追加されます。

文中に画像を挿入すると回り込んで表示されるのですが、解除しないでそのままにしておくと、下の文章まで回り込んでしまつて表示ががたがたになってしまいます。

ですので、画像を挿入した場合は基本的に回り込みを解除するようにしてください。

ボタンは3つありますが、基本的には、右端の All を使って解除すれば大丈夫です。

(6) テーマ (テンプレート) を設定する

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=l2o3f669blE>

管理画面のテーマから外観テーマのページを表示しテーマを変更して設定していきます。

テーマとは、WordPress のデザインを簡単に変更してくれるテンプレートのことです。

WordPress を使うメリットの1つが、このテーマによってデザインを簡単に変更できるというのがあります。

テーマは何種類もあつて、それぞれ微妙に使い方が異なりますが基本は同じです。

今回は、WordPress に最初からインストールされているシンプルで使いやすい「Twenty Twelve」を使います。

他のテーマでも基本は同じですので応用ができると思います。

テーマについては、ネットで自由に検索してお気に入りを探してくる方法と、それに対して正攻法というか無難な方法として

「外観テーマ」で新規追加とすると検索できるものから選ぶ方法があります。

これらを公式テーマといますが、これら以外は使わない方がセキュリティ上安全であると言われてい

ます。公式テーマについては、「wordpress 公式テーマディレクトリ」というサイトがあるのでその中から選ぶといいと思います。

<http://wordpress.org/themes/>

「Twenty Twelve」を使えるようにするために「有効化」をクリックしてください。

もうページを見られますので、どのように表示されているか確認してみます。

メニューを作成する

外観メニューを開いて、グローバルが選ばれていることを確認します。

そして、「メニュー設定」のテーマの位置でメインメニューにチェックを入れて「メニューを保存」をクリックします。

これで、一度ホームページの方を見てください。

メニューが配置されていることが分かります。

メディアに画像を追加する

サイドバーに表示する画像をメディアに追加しておきます。

「メディア新規追加」でファイルを選択します。

こちらにドラッグしてもメディアを追加できます。

最初から入っているウィジェットを削除する

では、ウィジェットを追加していきますが、

ウィジェットというのは、主にサイドバーやフッターの部分に貼り付けられる部品のことです。

”外観-ウィジェット”を開きます。

初期段階で右側の”Sidebar”にいくつかウィジェットが入っていますがとりあえず削除します。

最初から入っているこれらのウィジェットは、ブログサイトを作ることを想定して入っているものがほとんどですのでとりあえず全部消しておきます。

削除の方法は、ウィジェットをドラッグして左側の利用できるウィジェットにドロップするだけです。

画像ウィジェット

今使っているテーマである「Twenty Twelve」には、「メインサイドバー」、「フロントページウィジェットエリア」が2つあり、都合3箇所のウィジェット配置箇所があります。

2つの「フロントページウィジェットエリア」は、固定ページのテンプレートで「フロントページテンプレート」を使うと表示されますが、今回はすべてデフォルトテンプレートでページを作ります。

そのため、メインサイドバーだけを設定していきます。

既存サイトのように、サイドバーに画像を表示するために、「画像ウィジェット」を使います。

ウィジェットで「画像ウィジェット」を選んでサイドバーにドロップします。

まず、画像を選びます。

メディアライブラリにアップしておいた画像を選択して「ウィジェットに挿入」します。

タイトルとキャプションを既存サイトからコピーして貼り付けます。

リンクは後で設定します。

また、サイズは挿入した画像によりますが、今回の画像はサイズが小さいのでフルサイズにします。

配置は、中央にします。

いったん「保存」します。

リンク先の固定ページを一覧から選んで開きます。

パーマリンクをコピーします。

外観ウィジェットに戻って、先ほどの画像ウィジェットを開き、リンクのところに貼り付けます。

また、「詳しくはこちらから」の文字にもリンクをしたいので、`html`を打ち込みます。

以上で、画像の設定ができたので実際に見てみましょう。

このように画像が表示されて説明文があり、リンクも設定されています。

カスタムメニュー

次に、既存サイトのようにサイドバーにメニューを表示します。

あらかじめ「サイド」という名前で作ったメニューを表示します。

外観、ウィジェットで左から「カスタムメニュー」を選んでサイドバーにドラッグします。

タイトルも入力できますが、今回は既存サイトと同じにするために入力しません。

メニュー選択で、サイドを選びます。

「保存」します。

これでメニューの配置ができたので実際に見てみます。

このようにメニューが表示されているのが分かります。

フロントページの表示

先ほどからホームページを開くと表示がおかしいと思われていると思います。

設定→表示設定を開きます。

フロントページ、つまりホームページで最初に表示されるページについては”最新の投稿”になっています。

これは、ブログとして使う場合の設定ですので変更します。

固定ページを選んで、フロントページで、固定ページで作成したトップページに当たるホームを選びます。

「変更を保存」します。

これでもう一度ホームページを開いてみると先ほどの表示はきえているはずですが。

まだ、固定ページのほむむに何も入力されていないのでこうなっています。

(7) 現行サイトから WP サイトにコンテンツをコピーする

【動画】 https://www.youtube.com/watch?v=L_s6PYln5vo

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=ghBX1tzmBuQ>

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=4AkqmqPKeSk>

では、固定ページの中身を入力していきます。

まず、固定ページを一覧から選びます。

既存サイトのフォームの前までをコピーします。

編集画面に戻って、ツールバー切り替えて”T”を表示してクリックします。

このような表示がされますのでOKをクリックして、貼り付けます。

次に、キャッチコピーの画像を貼り付けます。

あらかじめメディアにアップしておいていいですが今回は直接貼り付けてみます。

文頭に1行あけてカーソルをおき、ここで「メディアを追加」をクリックします。

ファイルをアップロードからファイルを選択して開きます。

右側で、配置 {左}、リンク先「なし」、サイズ「フルサイズ」にして「固定ページに挿入」します。

ここで画像に文章が回り込む可能性があります。回り込んでいなくても、画像の後ろでクリアをします。

文章の前にカーソルをおき、ツールバーにある clear-both アイコンをクリックします。

このように clear-both が挿入されますが、実際には表示されません。

同様にもう一枚画像を挿入します。

リスト表示

リスト表示を使います。

行が詰まっている場合は、それぞれを独立した行にするために改行をします。

リストにした行をドラッグで選び、番号なしリストアイコンをクリックします。

リンクを設定する

文中の文字にリンクを設定します。

リンクをしたい文字をドラッグして、ツールバーから”リンクの挿入/編集”をクリックします。

”または既存のコンテンツにリンク”を展開して該当するページを探します。

見出しを設定する

段落には、大きく段落と見出しがあります。

このような行は、見出しにしますので、行にカーソルを持ってきて見出しを選びます。

文中の見出しは、基本的に”見出し3”以降を使うといいと思います。

文字に色を付ける場合は、色を付けたい文字を選んで”テキスト色”で設定します。

残りの文章を貼り付ける

ここにフォームが入りますが、後でやりますので、まず残りの文字を貼り付けて装飾します。

色を変えて、ここはセンタリングしてリンク設定をします。

SEO用のタイトルと説明を設定する

次に、All in One SEO Pack を有効にしたことで、固定ページごとにタイトルとページ説明が設定できるようになっているのでその設定方法についてご説明します。

原稿で、タイトルとページ説明文をこのように準備していると思いますのでこれを固定ページに貼り付けていくことになります。

まず、システムのページを開いて、本文編集エリアの下に行きますと

タイトルをコピーして title に、原稿の説明文を description に貼り付けます。

タイトルは、こちらの設定が優先されます。

「更新」していったん保存します。

お問い合わせフォームを作る

お問い合わせページ用のフォームを作ります。

既に、ショートコードは貼り付けてありますので、こちらの画面から設定だけを変えると自動的に変わります。

まず、現在のフォームを確認して、このフォームと同じことができるようにします。

こちらの設定では、”題名”がありますが不要ですので削除します。

項目に”電話番号”がないので追加します。

タグの作成から、電話番号を選びます。

コードを左に貼り付け、体裁を整えます。

メールにも電話番号を貼り付けます。

次に、管理者に送られてくるメールのメールの件名がこれでは、わかりにくいので変更します。

”ホームページのお問い合わせフォームから送信されました”

また、メッセージ本文ですが、題名を削除しましたので、こちらからも削除します。

差出人は、お名前とメールアドレスに分けておきます。

最初から入っているフッターの記述も削除します。

次に、フォームを送信した人にも自動返信メールが行くように”メール (2) ”を有効にします。

まず、メールの件名を設定します。これはフォーム送信者に自動返信されるメールなので”【セミナービデオ撮影】お問い合わせありがとうございます。”とします。

差出人は、サイト運営者である私たちことですから会社名や屋号を入れます。

本文は、体裁を考えてこのような文章を入れます。

[your-name] 様

藤田ひろし@セミナービデオ撮影格安サービス、です。

※これは自動返信メールです。

この度は、お問い合わせいただきまして誠にありがとうございます。

ご送信頂きました内容を確認させて頂き、折り返しご連絡させていただきます。

今しばらくお待ちください。

以下、今回送信して頂きました内容となります。

フォームに入力された内容を上からコピーしてきてここに表示します。

最後に、署名を付加します。

セミナービデオ撮影格安サービス
携帯：090-2728-9676
メール：fujitah@xx2.so-xxx.ne.jp
URL：http://shvideo.biz/

終わりましたら「保存」します。

お問い合わせページを表示してみて確認します。

そして、実際にフォームを送信してみます。

管理者にはこのようにメールが送られます。

フォーム送信してくれたユーザーにはこのように自動返信メールが届きます。

お見積もりフォームを作る

次に、トップページに使うお見積もりフォームを、お問い合わせフォームを複製して作っていきます。

まず、コチラで複製して、名前を変えます。

タグ作成で、依頼内容をラジオボタンを追加して、選択肢にコピーして貼り付けます。

選択肢ごとに改行します。

コードをコピーして左の一番上に貼り付けます。

そして、入力されている内容を参考にして体裁を整えます。

下にあるメールにもコードをコピーして、体裁を整えます。

次に、お名前の下に会社名が来ますので、テキスト項目で会社名を追加します。

必須入力項目ですか？にチェックを入れて、コードを左に貼り付け、体裁を整えます。
メールにも貼り付けます。

同様にテキストで、電話番号、撮影日、撮影時間、セミナー開催場所、会場の広さ、を作成します。

お問い合わせ内容は、セミナー内容を具体的にお知らせくださいに変更します。

メールの件名は、お問い合わせからお見積もりに変更します。

作成した項目をメール（2）の方にも項目を貼り付けておきます。

メール（2）の件名もお問い合わせからお見積もりに変更します。

また、文面はお見積もりを頂いた場合の自動返信になりますので、適宜変更をします。

あとは、「保存」し、コードをコピーして固定ページのフォームを挿入する箇所に貼り付けます。

先ほどと同じように送受信のテストをします。

YouTube 動画の埋め込み

次に、「スタッフ」ページのように、動画を埋め込みたい場合の方法をご説明します。

動画から埋め込みコードをコピーしておきます。

動画を挿入する場所にカーソルを置き、挿入→動画を挿入を選びます。

埋め込むタブの方で、先ほどのコードを貼り付けます。

テーブル (表)

次に、「特定商取引」ページのようにテーブル (表) を使いたい場合の方法をご説明します。

ツールバーの中にある、テーブルアイコンからテーブルを挿入にいくとサイズが決められます。

そこで、2 x 9の表を挿入します。

表ができたなら、文字をコピーして貼り付けていきます。

残りのページをコピーしてバックアップをする

後は、同じように固定ページに既存サイトから文章を貼り付け、写真を挿入していただくだけです。

すべての編集が終わりましたら、引っ越し作業をします。

引っ越し作業をする前に、一度 Backwpup を実行して最新のバックアップを取っておきます。

Dropbox も確認して、かならずファイルがアップされていることを確認しておきます。

(8) データベースとファイルを移動して引っ越しを完了させる

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=U9T7GDsJfP0>

スクリプトをダウンロードする

WordPress を引っ越しするとは、URL を変えるということなのですが、この作業を一括で行ってくれるスクリプトがあります。

今回の移動後もこのスクリプトを使って URL を書き換えるのでまずはスクリプトを入手します。

<https://interconnectit.com/products/search-and-replace-for-wordpress-databases/>

安定版である v 2.1.0 をクリックします。

ZIP ファイルがダウンロードされますので、解凍してアップロードできるようにしておきます。

FTP でバックアップする

FileZilla を起動して、サイトマネージャから最初に作ったエントリを選んで接続します。

最初の手順と同じように、まずはサーバーのファイルをすべてバックアップします。

最初にバックアップしたファイルも一応残しておいた方がいいので、上書きしないように別の場所にダウンロードしてください。

ファイルの移動をする

バックアップが終わったら、ルートにある既存サイトを構成するファイルをすべて削除します。

つまり、「wp」以外すべてです。

「wp」も後で削除しますが、引っ越しが完了するまでは残しておいてください。

つぎに、PC 側にダウンロードしたファイルの中の wp の中にあるファイルをすべてルートにアップロードします。

アップロードが終わったら、先ほどダウンロードして解凍したスクリプトファイル「searchreplacedb2.php」をルートフォルダにアップロードします。

では、スクリプトを動かしてデータベースの値の書き換えを行います。

注意深くやってください。

もし、失敗した場合は、Backwpup で Dropbox にバックアップしているデータベースのファイルで上書きして戻せますが、今回はその方法までではご説明できません。

ですので、くれぐれも注意深くやってください。

ブラウザで以下の URL を入力してスクリプトを直接動かします。

`http://(your domain)/searchreplacedb2.php`

Safe Search Replace という画面が表示され、チェックボックスがあり”Pre-populate the DB values form with the ones used in wp-config? It is possible to edit them later.”その下に「Submit」ボタンがあるのでそのままクリックします。

Database details が表示されて、wp-config.php から自動的に値を抜き出して設定してくれるので、「Submit DB details」をクリックして進みます。

次の画面で値を置換したいテーブルを選んで、その次の画面で検索するワードと置換するワードを入力します。

つまり、旧 URL と新 URL を入力します。

今回の場合ですと、

`shvideo.biz/wp ⇒ shvideo.biz`

です。

変換が終わると”Completed”が表示されて処理結果がでます。

問題なく終わりましたら、データベースの書き換えが終わっています。

`http://www.shvideo.biz/`

にアクセスして、wp で作ったホームページが表示されることを確認します。

また、管理画面も新しい URL でアクセスして

<http://www.shvideo.biz/wp-admin/>

に従来のユーザー名、とパスワードで入れることを確認します。

確認が終わりましたら、サーバーの「wp」フォルダはもう不要ですので削除します。

また、忘れずに、「searchreplacedb2.php」をサーバーから削除します。

以上で、このレポートは終わりになります。

あなたさまのビジネスの発展の手助けになりましたら幸いです。

【えびす商売繁盛マーケティング】
藤田 浩史 (ふじた ひろし)
東京都渋谷区恵比寿南 1-25-4-402
〒150-0022
電話：050-3592-9676
携帯：090-2728-9676
メール：fujitta@gmail.com
URL：<http://ssw2005.net/>